



社会福祉法人三山黎明会 〒371-0056 前橋市青柳町 983-1

まほろ TEL027-233-2561 / FAX027-233-2560

らいず TEL027-260-1900 / FAX027-233-2588

サニーマーケット TEL027-212-8300 / FAX027-212-8302

アベリア TEL027-219-1133 / FAX027-233-2588

ホームソレイユ/ホームあおぞら TEL027-260-1900(らいず内)

## 制度改革から感じる伝える事の大切さ～インスタグラム始めました～

サニーマーケット施設長 石倉 敦也

社会福祉法人制度改革が平成 29 年 4 月 1 日に施行しました。

今回の制度改革では社会福祉法人の使命を果たすことが求められ、それは自主的・自律的な経営を確立し多様な福祉実践を積み重ねていく、制度論から実践論へのシフトであります。また、社会福祉の担い手が育つ法人の基盤づくりとなるよう、社会福祉法人制度の存続と民間の公益法人としての主体性の確保を最も基本的な課題と考え、ガバナンスや財務規律の強化・事業経営の透明性の確保となる組織運営に関わる制度改革も行われました。さらに、他の主体では困難な福祉ニーズへの対応「地域における公益的な取り組み」の責務を規定され、今までの縦割りの制度では解消できないニーズへの対応に取り組むことも含まれてきます。このような大きな変革の背景にはいままで制度の枠の中で、現在対象としている事業ニーズの増大に対処することで精いっぱい対外的に理解してもらおう努力をしてこなかった事があげられます。全国経営協が実施した生活者調査では「社会福祉法人の事を知っている」と答えた人は 22% しかなく、社会福祉法人に対して抱くイメージでは、問題が多い・閉鎖的・経営が不安定・暗いと認知度の低さが目立つ結果でありました。改めて情報を伝えていくことの必要性を感じた資料内容でした。

法人としての情報発信は以前より取り組んでおりホームページで各事業所の様子が見られます。また、サニーマーケットでは今年からインスタグラムを始めました。現在は直売所の商品紹介だけですが今後は利用者の活動の様子や事業所の紹介、関係機関・企業との取り組みの様子など発信できればと考え中です。行動は知るところから始まります。理解が共感を生み、共感が行動を促していく。情報を発信していくことで触媒の役割を果たし、障がい個性をとらえながら、笑顔で安心して暮らせる社会の実現を目指し、今後の日本がかかえる“地域共生社会”の創造に向けた実践の場として情報公開は必要だと感じています。

対外に向けての伝える事のお話をしましたが、やっぱり私たちの実践の場である日々の支援でも伝える事を大切に行っています。情報量が多いのが苦手な方には端的な言葉で伝えたり、お話しが好きな方にはまずは受け止めてからこちらの思いを伝えたり、言葉ではない違う手段で伝えてみたりと生活歴や本人の好きな事・特徴に合わせて日々繰り返し広げられるコミュニケーションによってお互い理解できたり、気持ちが離れたりと波のように行われるやり取りに心が通う温かさを感じます。

これからも三山黎明会は障がいを有した方の思いを汲み取り、よりよい生き方を一緒に考え歩み続けたいと思います。

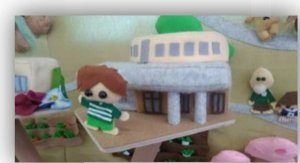
～サニーマーケット～



～まほろ～



～らいず～



サニーマーケットはインスタグラムを始めました！フォローお願いします！（^^）

## ～利用者さんの気持ちに寄り添うということ～

まほろ支援員 藤川 一志

まほろの作業活動の一つに農作業があります。今年は玉葱やズッキーニ、ブロッコリー、人参、冬葱の栽培を計画しています。夏は厳しい暑さに汗をぬぐい、冬は凍える冷気を肌で感じながらの作業となります。そうした中で、利用者さんは植付や除草、収穫、出荷準備等の作業に懸命に取り組んでくれています。作業では体力的な面や根気強さなども要求され、「働く」ということを意識しながら毎日の作業に頑張っています。

作業を利用者さんと一緒に行う中で、私は常に心掛けていることがあります。それは「利用者さんの気持ちにできるだけ寄り添って一緒に活動したい」ということです。寄り添うということとはどのようなことなのか、実際の作業の中では難しい一面があると思います。広辞苑で「寄り添う」を調べてみると「ぴったりとそばへ寄る」という意味ですが、作業の中では利用者さんの立場や目線でものを考え一緒に同じ作業に取り組み、共に汗を流すことと考えています。利用者さんと同じ状況で作業を行うことで交わす言葉は少なくともお互いが分かり合えることがあり、「働く」ということの大変さや成就感を味わうことができると思います。

まほろの基本理念は「共に考え、共に行動し、共に汗を流します」です。常にこの基本理念を念頭に置き、作業中の利用者さんの気持ちを推し量りながら利用者さんへの一つひとつの言葉掛けに配慮し、利用者さんの「思い」を大切にしながら日々の作業に取り組んでいきたいと思っています。

## ～らいずの活動～

らいず支援員 山田 美聡

らいずの活動メニューは、作業活動の他、施設を離れいろいろな体験を行おうと戸外活動や適度な運動を取り入れることを目的に、散歩・エアロビ・音楽活動・ストレッチなどを行っています。その中で今回は、音楽活動とストレッチ運動の様子を紹介したいと思います。音楽活動が始まると、曲に合わせて部屋の中をゆっくり歩くことから始まります。ゆっくりから早いテンポに変えたり、掛け声とともにジャンプをしたり、楽しみながら違った動きができるように組み立てていきます。また、床に座って歌を歌いながら、手遊びを行ったり、楽器をもって音を鳴らします。大きな声で歌ったり、小さな声で歌ったり、大きな音、小さな音を一緒に楽しみながら体感することで、他者との関係性を豊かにして協調性が育まれるよう組んでいます。また、ストレッチ運動では、普段力が入ってしまうような箇所を、無理なくゆったりとほぐしていきます。作業中などはほとんど椅子に座り同じ姿勢となる為、知らないうちに背が丸くなったり固まってしまう。そのような時に体の緊張を和らげほぐすことで、リラックスした状態でいられるようにしています。今後も、より様々な活動に楽しく参加出来るよう、工夫していきたいと思っています。

## ～サニーズマーケットは行事も全力投球です！～

サニーズマーケット支援員 涌澤 洋子

サニーズマーケットは開店準備に始まり、野菜を中心とした作業活動が主です。“仕事を行う所”という共通認識のうえで成り立っています。時には昼休みを15分短縮して仕事を行うこともあり、仕上がった時の達成感はみんなで悦びその時のホッとした表情も印象的です。

さて、作業の忙しいサニーズマーケットですがお花見では田園プラザへ癒しを求め、家族と一緒に1泊旅行、真剣にボールを投げ筋肉痛を起こしてしまうボーリングと食事の忘年会、お餅をたくさん食べよう会などの季節感を持った行事が年々と増えてきました。その中で8月に行なわれたじゃがいも収穫祭について紹介します。利用者さんと支援員で収穫したじゃがいもを使い大鍋2つのカレーとポテトサラダ作りです。4キロの蒸かしたじゃがいもの皮を剥きサラダ作り、6\*のじゃがいもの皮剥きを行いカレー用と、いままで経験した事のない下処理作業でしたが終わるころには手馴れてきた姿にたくましさを感じました。一人では不安でできない事も仲間と一緒に行なった経験が少しでも自信となり次に繋がっていくと良いなと思います。そして美味しいと言ってくれる仲間の笑顔も最高の褒め言葉です。これからもチャレンジする気持ちを大切に、一人一人の連係プレーで作業をこなし、行事も笑顔であふれる活動にしていきたいです。

## ～ソレイユの支援～

ホームソレイユ世話人 吉田ユカリ

ソレイユでは6月にフラワーパークへ行きました。ゆっくりと散歩しきれいなお花や季節の風や匂いを五感全身で感じていたらお腹から「グ～」となり団子探しとなりました(笑)やっぱりレストランで嗅ぐ香りが一番で選ぶのに15分、食べるのはあっという間でした。食後は鯉の餌やりを経験しました。大きさや色合いの違う鯉をみんなで探しながら、お気に入りの鯉(押し鯉)を見つけ多くえさをあげたりととても楽しい時間を利用者さんと共有できました。最近では誕生日会を行いみんなで歌を歌い美味しい食事の中、プレゼントを受け取った笑顔は忘れられない一瞬であります。次回はどんなイベントをしようか...楽しみです!

## ～あおぞらの支援～

らいず/あおぞら支援員 関川 翔太

グループホームあおぞらでは現在、男性利用者4名、女性利用者3名が共同生活を送っています。日中活動を終え夕方、送迎バスにて帰宅しテレビを観たりパズルをしたり絵を描いたりみなさん自由に余暇を過ごされています。食後の食器洗いや洗濯物を干したりたたんだりとなるべく自分で出来る事はやってもらい、出来ない部分を職員がサポートしています。あおぞらでは行事として誕生日会やクリスマス会なども予定されており、みなさんいつも楽しみにしています。地域の中で障害の者の方が社会的自立を目指し暮らしていく手助けを今後も行っていければと思っています。

## ～相談支援事業所アベリアより～

アベリア相談支援専門員 牛込敦彦

アベリアでは、日々の生活の中で困っている事を本人、家族の方達と一緒に考えて、悩み、最善の方法を提案できるよう努力をしています。

そのような中で日々研さんを積む事も必要であり、平成30年7月に関東地区知的障害福祉関係職員研究大会に参加してきました。相談支援に関する分科会は、当事者として自閉症の診断を受けている片岡聡さんの講演でした。この方は東京大学を卒業し、一般企業を経て現在NPO法人の代表となり特別支援学校を巡回し、自閉症児・者の行動上の問題の解決のためのアイデアの提供を行っている方でした。

会場内は照明を点けない、拍手は禁止等の感覚過敏に配慮する講演でした。当事者(自閉症)の方の意見はとても新鮮で言葉の重みを感じました。抜粋ですが片岡さんからこのような言葉がありました。

・自閉症の方達にはこの世界は刺激が強く(音、光、気温、触覚等)行き辛い環境である。その中で周りに合わせられるように調子を整えようと努力をしている。体をゆらす、ジャンプをする、床に寝そべる等その人その人の調子を整える行動を行っている。このような自分なりの努力も健常者から見ると特異な行動と見られて制止される。そのため調子を整える為の行動を抑えようとすると行動がエスカレートしてしまう。

・自閉症の方達は様々な刺激の中で生活するため体調(肉体的、精神的)を崩しやすい。特に体がほてりやすく体温調整が難しい。靴や靴下を脱ぐ、床に体をつける等は自分なりにほてりを取ろうとして体の調子を整えようとしている。保冷剤等を使用して体を冷やすと本人を楽にする。

・自閉症の方達に対する支援は健常者の価値観を刷り込まれ、健常者目線での支援になっていないか。苦手な事をいつも訓練しようとしていないか。表に出た行動のみを取り除いても問題解決にならない。etc.

今回の講演は180度考え方が変わるような衝撃があり、よく使われる言葉の「寄り添う」とはどんな事なのかを考えさせられました。決めつけ、思い込みで走らず、頭をやわらかく多角的に物事を見て判断する事が必要なのだと思います。このような話を皆様とも出来る機会があれば良いかと思っています。





## 本部事業報告（平成29年度事業報告）

日付	項目	内容
5/18	監事による監査	1.平成28年度会計執行状況・施設運営状況 2.平成28年度有機栽培申請に係る内部監査
5/20	第1回理事会	1.平成28年度事業報告について 2.平成28年度決算報告及び内部監査報告について
5/27	平成29年度 「れいめい祭」開催	地域交流事業
6/10	第1回評議員会	1.平成28年度事業報告及び決算報告について 2.法人役員（理事・監事）の選任について
6/10	第2回理事会	1.理事長及び業務執行理事の選任について
11/8	第3回理事会	1.平成29年度第1次補正予算について 2.各種規程見直しについて
3/14	第4回理事会	1.平成29年度第2次補正予算について 2.平成30年度事業計画について 3.平成30年度当初予算について 4.平成29年度指導監査指摘事項及び改善報告について 5.各種規程見直しについて 6.評議員会招集項目について

社会福祉法人三山黎明会ホームページのご案内（法人情報を公開しています）

法人の詳しい事業内容等がご覧になれます

<http://www.mireimei.or.jp/>

～れいめい祭を振り返って～

平成30年度れいめい祭実行委員 らいず支援員 五十嵐 洋介

今年は5月26日（土）にれいめい祭が開催されました。天候にも恵まれ参加された利用者の方や地域の方々の笑顔が多く見られました。

今回は提灯を新しく作り直しました。利用者の方々が作成した提灯は祭りの会場に設置して観る人の目に留まるすばらしい物になり自分で作った提灯を探して教えてくれる利用者の方もいました。模擬店では、毎年好評をいただいている豚汁や焼きそば・スパゲッティ・花と新鮮野菜などを、施設職員のみならず家族会や学生ボランティアの方々にもご協力いただきながらの販売となりましたが、今回も大好評！お祭りの後半には全て売り切れとなってしまいました。また、ステージ部門ではみんなで楽しめたダンス、歴史ある八木節、美しい日本舞踊、大迫力の沖縄エイサー太鼓、みんなで歌を歌ったアコーディオン、それに各施設の出し物など今年も多くの出し物があり大変盛り上がりしました。

最後になりましたが、ご協力していただいた個人・団体・取引先・そしてボランティアの皆さん、早朝より誠にありがとうございました。また、ご来場いただいた多くの皆様に感謝申し上げ、れいめい祭の報告とさせていただきます。ありがとうございました。

